

入が進む中、日本は出遅れている」と紹介した。

という意味で地域金融の役割は大きい。持続可能一可能性を探った。

産直と観光の連携学ぶ

榊引地域の果樹農家ら 金丸さんが先進事例紹介

「農業・産直・観光の連携による地域活性化」をテーマにしたセミナー



が7日、鶴岡市の西荒屋公民館で開かれ、同市榊引地域の果樹農家らが、

内閣官房地域活性化伝道師の金丸弘美さんの講演で、国内外の産直施設や農家民宿などクリンツームの先進事例を学んだ。

2010年6月に榊引地域の果樹園組織や観光関連団体などで組織した榊引地域産業振興プロジェクト推進協議会(会長・澤川宏一榊引観光協会長)が主催。庄内各地の産直施設の関係者らを含め約60人が参加した。

金丸さんは、キーキ作りを1年間特訓したイチゴ農家の女性たちがカフェを開き、年間売り上げ

金丸さんの講演で産直と観光の連携などを学んだ

8300万円という高知

県中土佐町の「母倶楽部」をはじめ、料理研究家と生産者が地元食材で創作料理を作るワークショップを行った茨城県小美玉市、手作りのジュエリートからカフェ、産直など多角展開し年収1000万円

の女性もいる長崎県大村市の産直「シユシユ」など、全国の先進的な取り組みを紹介した。

中土佐町では「1年間の特訓に行政が補助を出す。こうした技術習得への補助が重要」、小美玉市では「地域の食材の歴史、風土、品種、生産量栽培、出荷窓口を明確にする『テキスト化』がブランド形成に役立つ」、シユシユでは「近隣の観光農園をPRしてあげることで、一日楽しめる村になり、お互いに売り上げがアップした」など要点を解説。また、欧州の農家民宿では食事を提供せず、周囲の飲食店で食

べてもらおう地域連携スタイルが主流で、それを模し稼働率90%という大分県竹田市のコーテージの例も紹介した。

参加者の質問に答え、PPP(環太平洋経済連携協定)について、金丸さんは、基本的には反対。欧州では「工業製品の輸

出などで」もうかつた分を、農家への直接支払いや農村の環境保全、景観維持、医療、福祉に回すという制度でグローバル化に対応している。反対しても通らないかもしれず、そうしたセットで進めるよう提言していくべきでは」とした。

この時期に収穫できるのは当然、ハウスで栽培しているからである。

▼買うなら地元産をと思ひ、何種類か買い物籠に入れレジに向かう。ふと、ハウス野菜を産直施設へ出荷する知人が漏らした「働けばわずかでも収入にはなるが、とにかく忙しい、この先どうなることか」という言葉を思い出した。

▼天候に左右されずに栽培でき、管理の手間を惜しまなければ一定の品質を保てるのがハウスのメリット。しかし、暖房用の燃料や資材が必要で生産コストは露地栽培より高くなる。そこに、こ

四季折々のおいしさに一

マルノーしょうゆみそ

JA山形農工連
TEL(0234)52-3100

春の味

スーパーや量販店の入り口近くで生鮮野菜の産直コーナーを見掛ける。生産者の顔写真の前に置かれたコンテナにさまざまな野菜が入っている。緑の濃い野菜がおいしそうだ。

この時期に収穫できるのは当然、ハウスで栽培しているからである。

▼買うなら地元産をと思ひ、何種類か買い物籠に入れレジに向かう。ふと、ハウス野菜を産直施設へ出荷する知人が漏らした「働けばわずかでも収入にはなるが、とにかく忙しい、この先どうなることか」という言葉を思い出した。

▼天候に左右されずに栽培でき、管理の手間を惜しまなければ一定の品質を保てるのがハウスのメリット。しかし、暖房用の燃料や資材が必要で生産コストは露地栽培より高くなる。そこに、こ

べてもらおう地域連携スタイルが主流で、それを模し稼働率90%という大分県竹田市のコーテージの例も紹介した。